

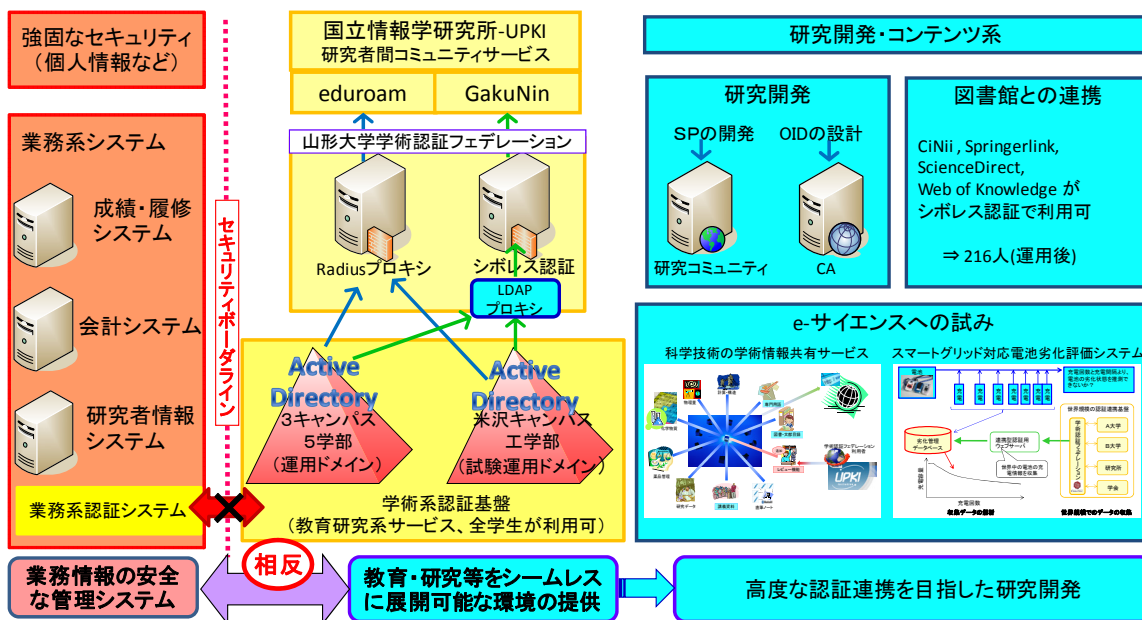
## 山形大学における「学認」対応認証基盤整備と e-サイエンスへの取り組み

発表者 伊藤 智博（山形大学大学院理工学研究科／山形大学情報ネットワークセンター）

山形大学は、平成 20 年度から実施された UPKI シングルサインオン実証実験に参加し、シボレスや学内認証基盤に関する技術的な問題解決を図った。平成 21 年度からは、UPKI 学術認証フェデレーション（現在の Gakunin; 学認）の運用フェデレーションに参加し、電子ジャーナルを始めとする外部コンテンツの利用を開始した。特に、本学の学内認証基盤は、分散キャンパスであるがゆえに、複数の認証基盤(Active Directory)によって構成されている。学認に認証サーバ (IdP) を提供するためには、一つの認証サーバから複数の認証基盤を参照することが必要であり、LDAP プロキシ技術によって、複数認証基盤を 1 つに束ね、かつ、属性名を変換することにより解決した。さらに、学内向けに展開している研究用フェデレーションでは、次世代 IP(IPv6)の IdP/SP の実証実験を行っている。

一方、本学からフェデレーションへのサービスとして、「科学技術の学術情報共有のための双方向コミュニケーションサービス」を提供している。さらに、e-サイエンスへの試みの 1 つとして、「スマートグリッド実現へ向けたフェデレーションアーキテクチャによる電池劣化管理システム」の開発を行っている<sup>1)</sup>。

本講演では、本学が学認への参加に至った経緯と現在の運用状況、さらには、サイバーサイエンスを目指した教育・研究活動の取り組みについて報告するとともに、本学の将来計画について述べる。



【謝辞】 IPv6 ネットワークを提供していただきました JGN2plus および WIDE プロジェクトの皆様へ深く感謝申し上げます。

【参考資料】

1. スマートグリッド実現へ向けたフェデレーションアーキテクチャによる電池劣化管理データベースの構築、伊藤智博,立花和宏,仁科辰夫,尾形健明,平成 22 年度化学系学協会東北大会講演要旨集, 230 (2010).